

台湾日本語教育実習レポート

麗澤大学

日本語・国際コミュニケーション専攻 3 年

大堀 裕貴

私は約一か月間、台湾の屏東商業技術学院での日本語教育実習プログラムに参加させて頂きました。台湾での生活は驚くことばかりで、毎日が新鮮で刺激的でした。日本語学科の授業見学では、1 年生の日語、日本語会話、聴力練習、発音の授業、また、2 年生の授業も見学しました。学生と宿題や問題の答え合わせをしたり、テストの練習をしたり、また、会話の練習をしたりしました。そこでは日本には気づかないようなことにたくさん気づくことができました。例えば、遊びの誘いを断る言い方についての授業で、「その日はちょっと…」の「…」の意味を先生が解説していました。日本ではその隠された意味は言わなくてもわかりますが、台湾の文化は最後まで言わないとわからないので「…」の意味が何なのか理解できません。このような違いは台湾に来なければわかりませんでした。教壇実習では、初めは 60 人近くの学生達に日本語で日本語を教えることができるのだろうか、と不安でいっぱいでした。しかし、準備はあわただしくなりましたが、先生方のサポートと学生の協力的な姿勢のおかげで無事実習を終えることができました。実習後の先生のフィードバックは、自分では到底気づかないようなところを指摘して頂きました。この経験は一生の宝物になると思います。

放課後や休日はよく学生が遊びに誘ってくれました。一緒にご飯をたべたり、高雄や夜市へいたり、映画 KANO を見に行ったりと、充実した日々を過ごすことができました。日本語学科の 1 年生全員と夜市のゲームで走り回ったのは忘れられません。文化の違いにも驚かされました。交通はバイクが多く、ちゃんとした歩道がないので歩くと怖かったです。また、屋台が多く、美味しいものがどこでも気軽に食べられるのが日本にはない魅力でした。何しろ食べ物は安いので、ついついたくさん食べてしまった気がします。タピオカミルクティーを一生分飲んだのもいい思い出です。そして何より印象的だったのは台湾人の情熱です。ごはんを食べていた時、学生運動の報道をテレビで何度も見ました。学生が、自分たちの将来に関わることだから政府に抗議する、ということは日本ではないと思います。また、台湾人は優しくて情に厚いと思いました。一か月しかいなかった私達実習生にパーティをしてくれたり、同じ T シャツを作ってくれたり、いろいろなところに遊びに連れて行ってくれたり、本当に良くしていただきました。これが初めての台湾でしたが、この一か月で台湾の事が大好きになりました。機会があったらまた台湾に遊びに行きたいと思います。そしてここで学んだ様々なことを今後活かしていきたいと思います。